

FILTER



きっと、このアイデアは昔から存在していた。気まぐれな騒りと陰り。失ったもの、新たに得たもの。今まで取り組まなかったジャンルで、成功できるか？内外からのアイデアは膨らんでいった。

もちろん、僕たちはワウやアヒルのようなサウンドには馴染み深い。そしてシンセプレイヤーはスウィープやフェーダーを理解している。彼らはずっと僕たちの先にいるんだ。じゃあ、スローで驚きに溢れた、デュアルムーブメントはどうだ？きっと君の想像の少し上に行く。並列の波状処理には、多分発見されるべき素晴らしさがまだ残っている。

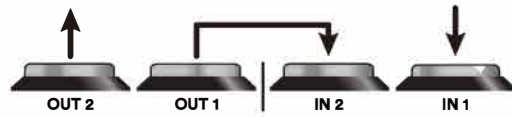
だからフィルターペダルのFloatを作ったんだ。ローパス、バンドパス、ハイパスをそれぞれ選択できる2つのフィルターセクションを搭載している。並列モノラル、直列モノラル、ステレオのルーティングが可能だ。Floatの中心となるのはカットオフ・フリークエンシーで、固定するか自由なムーブメントを与えることもできる。LFOとエンベロープがオフのときはカットオフは最大で固定される（フィルターを動かして聴いてみて！）。LFOが有効だとカットオフは最大から最小の間を動き出す（リラックスして聴いてみて！）。エンベロープが有効のとき、LFOまたはカットオフは入力のボリュームにより変化する（フィルターと一緒に演奏してみよう！）。もっと情報が必要だよ？OK、これから書いていくよ。

ROUTING

モノラル/パラレルルーティング:
In1からOut1へ接続します。フットスイッチ1がメインのオンオフスイッチとして機能し、Filter 1を有効にします。フットスイッチ2でFilter 2を有効にします。フットスイッチ2でFilter 1と並列に追加します。



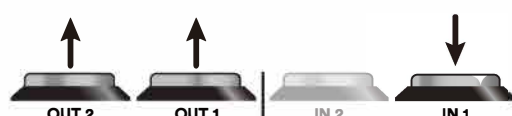
シリーズルーティング:
メイン入力をIn1へ接続し、Out1とIn2をパッチングします。各フットスイッチは個別のチャンネルをコントロールします。



トゥルーステレオルーティング:
In1/Out1とIn2/Out2を個別にルーティングします。各フットスイッチは個別のチャンネルをコントロールします。



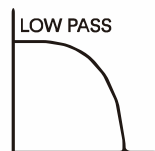
スプリットモノルーティング:
In1のみ接続、Out1と2から出力でモノ信号をステレオ出力します。各フットスイッチは個別のチャンネルをコントロールします。



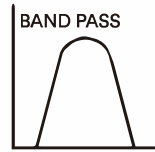
FIRST, SOME DEFINITIONS

カットオフフリークエンシーはフィルターのサウンドを決定づける重要な要素です。

ローパスフィルターはカットオフより下の周波数を出力へ送ります。



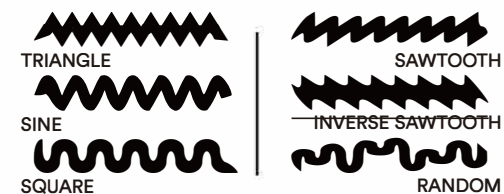
バンドパスフィルターはカットオフ周辺の周波数を出力へ送ります。



ハイパスフィルターはカットオフより上の周波数を出力へ送ります。



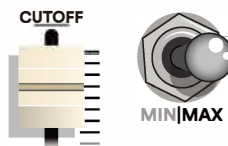
LFOはLow Frequency Oscillatorの略で、パラメーターを自動的に上下させます(この場合はカットオフ・フリークエンシーです)。Floatで用意されているLFOの波形は以下です。



エンベロープが意味するものは様々ですが、Floatではパラメーターが入力シグナルへどう反応するかを変化させます。

CONTROLS FOR BOTH FILTERS 1+2

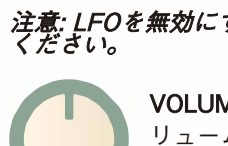
FILTER LP/BP/HP
トグルスイッチはフィルターの種類をローパス、バンドパス、ハイパスから選択します。



MIN/MAXトグルスイッチがMINのとき、CUTOFFはカットオフ・フリークエンシーの最小値を決定します。



MIN/MAXトグルスイッチがMINのとき、RATEはLFOフリークエンシーの最小値を決定します。

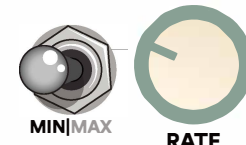


VOLUMEはフィルターのボリュームを設定します。

MIN/MAXトグルスイッチがMAXのとき、CUTOFFはカットオフ・フリークエンシーの最大値を決定します。



MIN/MAXトグルスイッチがMAXのとき、RATEはLFOフリークエンシーの最大値を決定します。



VOLUMEはフィルターのボリュームを設定します。

注意: LFOを無効にするにはRATEを0にしてください。



SENSITIVITYはエンベロープの方向と感度を設定します。LFOが無効のときは、エンベロープはLFO速度に影響を与えます。LFOが無効のときはエンベロープはカットオフを決定します。エンベロープを無効にするにはノブを12時へ設定します。12時以降ではエンベロープは最小のレートまたはカットオフから始まり、入力信号の強さに応じて最大のレートまたはカットオフへ移動します。12時以下では最大のレートまたはカットオフから始まり、入力信号の強さに応じて最小のレートまたはカットオフへ移動します。12時から双方向へ上げていくごとに、エンベロープの感度を強くしていきます。強い感度になると、エンベロープがより敏感に入力へ反応します。

SHAPEはLFOの波形を決定します。左から右へ、三角波、サイン波、矩形波、反転ノコギリ、ノコギリ、ランダムです。

RESONANCEはフィルターのレゾナンスを設定します。カットオフ周辺のシグナルの強度と存在感を高めます。

ENVELOPE RESPONSE
Floatのエンベロープには2つの異なるアタック/リリースモードがあります。デフォルトではFilter1は速いレスポンスの標準的なエンベロープフィルター、Filter2はより遅くマイルドに反応します。各フィルターは別のモードへ変更が可能です。変更するにはエクスプレッション設定モードに入ります(EXPRESSIONの項を参照下さい)

- MIN/MAXスイッチをMinでホールドします
- 速いアタックには、設定したいフィルターのsensitivityノブを12時以降へ動かします(既に12時以降の場合はグリグリ動かして下さい)
- 遅いアタックには設定したいフィルターのsensitivityノブを12時より下へ動かします(既に12時下の場合はグリグリ動かして下さい)
- L MIN/MAXスイッチを離しましょう
- 2つのフットスイッチをLEDが点滅するまで長押しして、キャリブレーションを終了します

EXPRESSION

EXPジャックは各フィルターのRateまたはCutoffを外部EXPペダルで制御できるようにします。TRSのtip wiperのペダルが必要です。選択したコントロールの最小値（ヒールポジション）から最大値（トーポジション）を移動します。エクスプレッションのモードを変更するには、まず2つのフットスイッチを同時に6秒長押しします。LEDが点滅しキャリブレーションへ入ったことを表します。各サイドのRateまたはCutoffを動かしてエクスプレッションへ割り当てます。RateまたはCutoffが動かされないとき、そのサイドのエクスプレッションは無効になります。設定モードを抜けるには再度両方のフットスイッチをLEDが点滅するまで長押しします。



MINIMUM | MAXIMUM

MIN/MAXトグルはLFOとエンベロープによるパラメーター変化のレンジを決定します。レートとカットオフ制御における最小値と最大値を設定可能です。

Note: もし最小値より下に最大値を設定、もしくは最大値より上に最小値を設定してしまったときは、数学的な悪夢を回避するため、2つの値は同じになります。

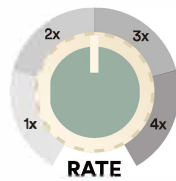
SYNCING

SYNCスイッチがオフのとき、各フィルターは独立して作用します。



SYNCスイッチがオンのとき、Filter2はFilter1のムーブ要素(LFOかエンベロープ、またはエンベローピングLFO)に追従します。

Filter2のRATEノブはFilter2のサブディビジョンの制御となり、Filter1のレートの1,2,3,4倍へ設定ができます。



Filter2のSENSITIVITYノブは方向コントロールとなります。12時以下はEnvelope 1の反転、

SENSITIVITY 12時は無効、12時より上はEnvelope 1へ追従します。Note: syncはフリークエンシーでなくムーブメントへ直接作用します。syncモードでも、Filter2のカットオフの最小/最大値はFilter2独自の設定となります。

FILTER



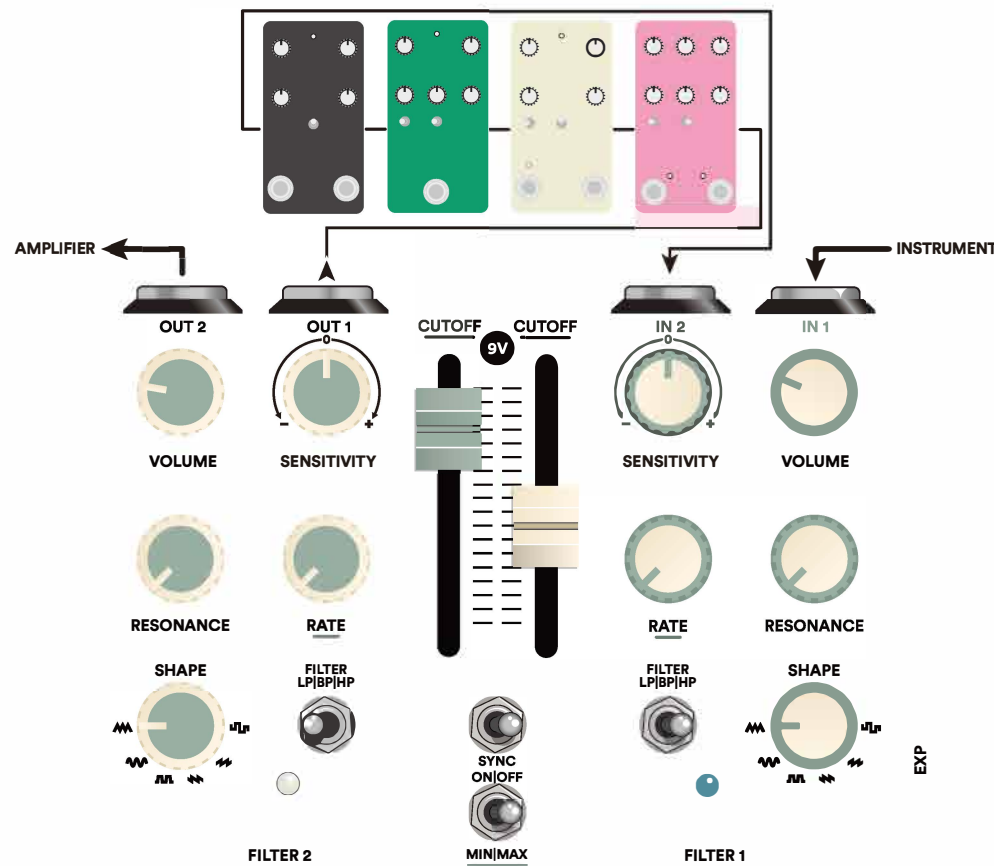
SYNC LFO PHASE

LFOがシンクしているとき、正位相または逆位相へ設定ができます。
 正位相ではLFOが最小から最大値へ同じように動きます。
 逆位相ではLFOが反対方向へ動きます。一つが最小のときもう一方は最大値になります。

PHASEを設定するには、エクスプレッションのキャリブレーションモードへ入ります (EXPRESSIONの項を参照下さい)

- ・ MIN/MAXスイッチをMinでホールドします。
- ・ マッチした動きには、Filter2のRateノブを12時より下へ設定します(既に12時より下のときは、グリグリ動かして下さい)
- ・ 反転した逆の動きには、Filter2のRateノブを12時より上へ設定します(既に12時より上のときは、グリグリ動かして下さい)
- ・ Min/Maxスイッチを離しましょう
- ・ 両方のフットスイッチをLEDが点滅するまで長押しします

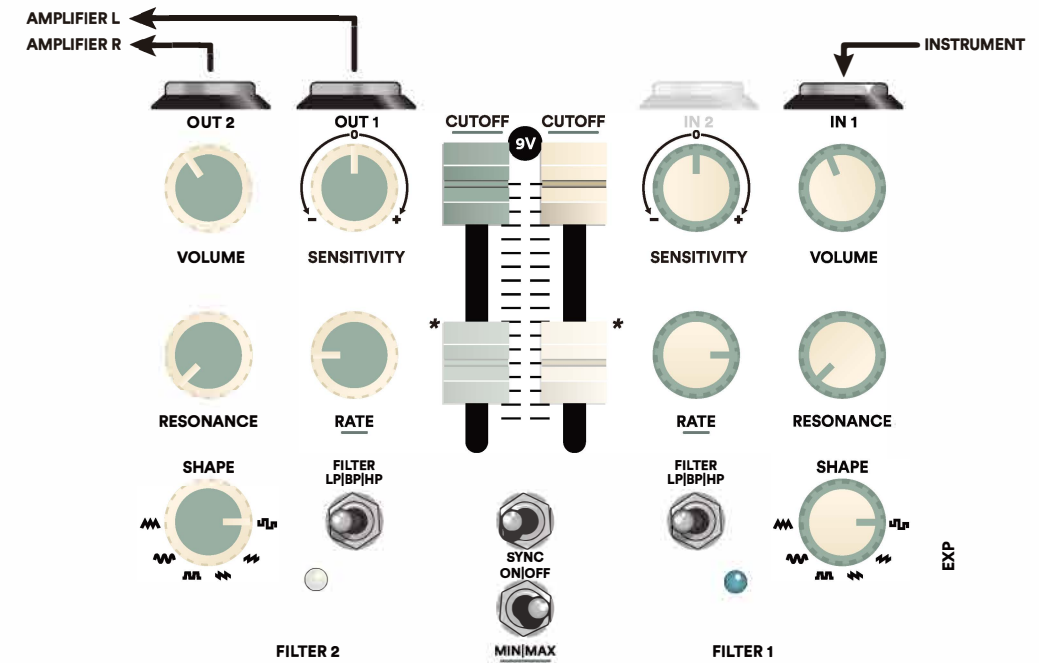
SAMPLE SETTING 1



Subtle Shaping

貴方のペダルボード全体をOut1とOut2の間へ接続しましょう。Filter1はシグナルの最初でローエンドをシェイピングし、ふらつきを抑えます。Filter2はシグナルの終わりで高域を整えます。フェーダーは好みに動かしてみましょう。

SAMPLE SETTING 2

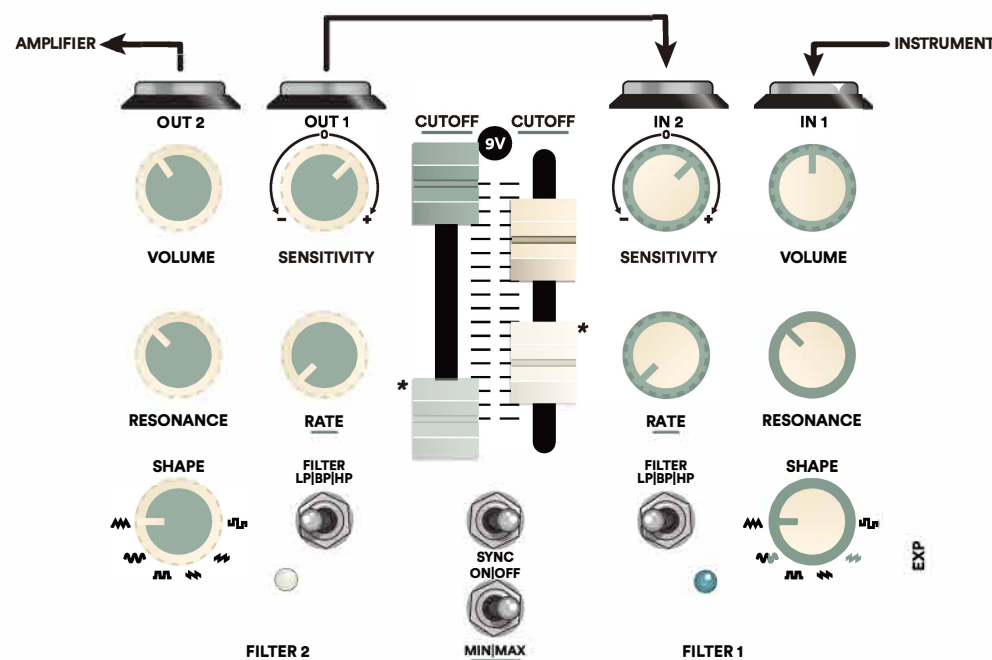


Stereo Bubbling

ハードなパンニングを実際に行いたくなるはず。同期したランダムなLFOが同時に異なるフリークエンシーへスキップして、ステレオ拡散においてランダムなスペースを生み出します。コードをループさせて、漂流しよう。Rateはお好みで。

*(minimum setting)

SAMPLE SETTING 3

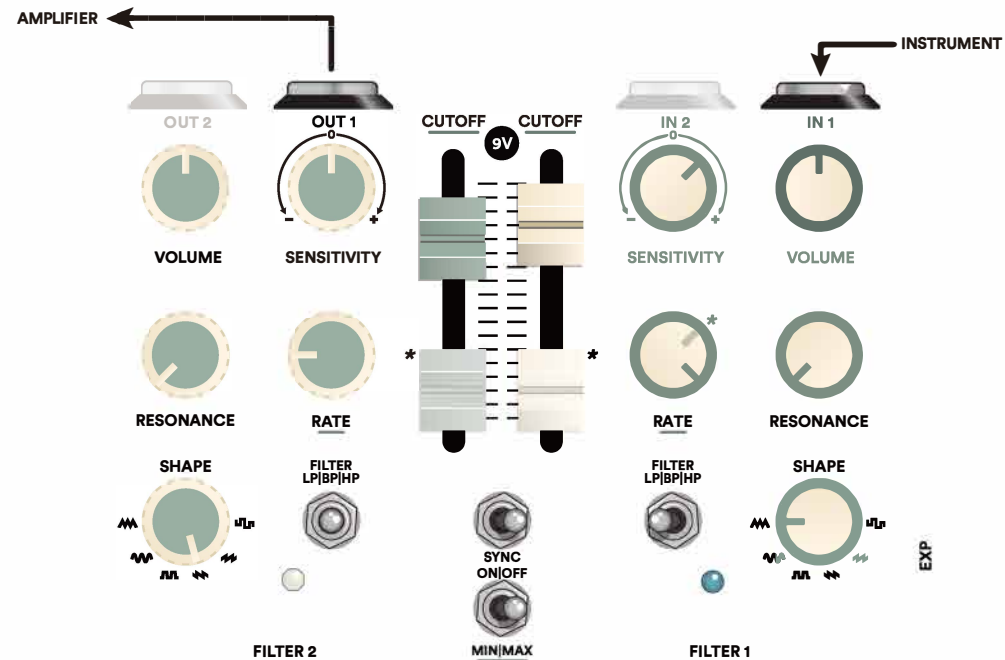


Megalope

Filter1の速いアタックをFilter2の遅いアタックで手懐ける設定。深い底から何か浮かび上がるような。sensitivityはプレイのスタイルと音量で設定し、Filter1のresonanceとVolumeでFilter2のエンベロープをかき乱そう。何か歪んだものと組み合わせてみて。

*(minimum setting)

SAMPLE SETTING 4



Uncertain Tremophase

モジュレートするローパスフィルターはエンベロープ制御し、もう一方のモジュレートバンドパスはエンベロープ無効で並列で配置。更に異なる波形。トレモロ、ハーモニックトレモロ、フェイザー、なにかに似ているようで、何者でもないサウンド。

*(minimum setting)

Floatは9Vセンターマイナス、100mAで駆動します。非常に高いヘッドルームがあり、高いボリューム、ラインレベルを受け取りのためバイポーラサプライで(+9V)駆動しているため、規定以上の電圧は故障の原因となります。

入力インピーダンス500kΩ、出力1kΩ

FLOAT artwork by Eric Nyfeller
ericnyfeller.com

oldbloodnoise.com
© 2022 OKC USA

